

静岡・川合遺跡八反田地区

- 1 所在地 静岡市南沼上
- 2 調査期間 一九八九年(平一)一〇月～一九九〇年三月
- 3 発掘機関 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 4 調査担当者 志村廣三・加藤真澄・佐藤正知
- 5 遺跡の種類 官衙跡・水田跡
- 6 遺跡の年代 三～四世紀、七世紀以降
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(清水・静岡)

遺跡は、静岡平野の北東部、南沼上丘陵の南にのびる山裾に位置する。調査区では、丘陵の山裾及び長尾川が形成した自然堤防による微高地とそれに伴う後背低地が確認された。静岡バイパス建設工事に伴って調査された川合(内荒)遺跡の北側に位置し、連続する同種の遺跡とみることができ。微高地上には奈良時代から平安時代前期にかけての掘立柱建物・井戸・溝状

遺構等が存在する。木簡はゴミ溜めのような浅い凹地から出土した。掘立柱建物が集まる地区からはフイゴの羽口や鉄滓などが出土し、鍛冶工房の存在を示している。石製分銅、丸軋(銅製)、墨書土器なども出土している。平安時代後期以降の遺物も豊富で、瑞花八稜鏡、宋銭、白磁、ものさしなどが出土した。後背低地は少なくとも平安時代後期以降、条里型の水田として利用されており、坪を区画すると考えられる大畦が検出された。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「下代謹解申 高諸□大□□□□」
[刀カ]
253×29×7 0.51

下端の一部が欠損。第六字以下の八文字はやや右に偏して配される。墨痕は上方六文字が明瞭である。第三字「謹」の上部に点が見えるが、削り残しと判断される。同様な点画は「下」と「代」との間にも認められる。第二字は「代」としたが、「氏」の可能性もある。裏面は腐損した箇所があり、墨痕は確認できない。

(佐藤正知)

